

高松中央商店街振興組合連合会理事長

丸亀町不動産(株)代表取締役
高松まちづくり(株)代表取締役

ふるかわ こうぞう

古川康造 氏

(せとうち観光専門職短期大学
専任教員予定)



アカデミックの現場から

見る香川県

商店街に住むという目線を変えた取り組みでまちづくりをしている古川康造氏。香川大学大学院、経済学部の非常勤講師も務める。その氏が、せとうち観光専門職短期大学で教員予定となった。その理由は、

「自分自身でも最初は違和感がありました。観光業者でもなく、都市計画に携わってきたので。お話を聞くと、この大学は座学だけでなく現場に出てフィールドワークをメインにしたいと、『まちづくり』をせざるを得なかった社会背景は、実務を通すとよく分かる。観光だけににとどまらず、これからの社会で実務に就く人には最低限必要な実務の基礎知識になります」。

人口減少、高齢化社会が進む中、インバウンドや都市圏の関係人口に頼ろうとしたが、新型感染症のため棚上げになった。それを補完する為にも、若い人達の育成というのは非常に大切なことだと氏は言う。

「ただ、こういった背景を知識として知って貰わないと。観光客をお迎えするだけではなく、もっとその先があるんだよ、ということ

を体感して貰いたい」と話す。

世界でも稀に見る大きな商店街を長年見てきた氏は、観光客は非常に買物好きだと言う。そういうお客さんを如何に商店街に誘致するか。そういう観点からも学生にマーケティングを実務としてやって貰いたいと話す。学術的に調査研究することで、町のライフスタイルを観光資源にと独自の目線も持っている。短期の滞在者ではなく居住者を引っばってくる為に、学生が研究することは面白い展開になりそうだ。

「僕らは日常の風景ですが、高松つてもすごく暮らしやすいです。災害はほとんどない、港とダウンタウンが隣接して平野が広がっている。うどんのお陰で生活コストも安いです！昔は夢物語でしたが、もしかしたら首都圏より老後がハッピーに暮らせる地域かも知れない」。香川県の土地柄も研究し、観光から交流人口へ、そして定住人口まで結びつけるビジネスモデルを学んで欲しいと語った。

また、まちづくりは誰かのためにやるのではなくて自分たちの将来のためにやっておく大切な作業と、声に熱意を込めた。

欄 告 広